

システム音読練習の進め方

(1) 音読練習とシステム音読練習

音読練習は英語指導者のほぼ 100%が行っている言語活動である。(ベネッセ教育総合研究所『中高の英語指導に関する実態調査 ダイジェスト版 2015』)

その音読練習を授業に組み込む際には、「何のために音読をするのか」の目標設定を指導者と生徒が共有する必要がある。音読練習の後にパフォーマンス課題を設定するならば、そのパフォーマンスに生きる音読練習を組み込むことが大切である。その視点から考えると、音読練習はすべての単元で組み込まなければならないものではないと考える。

システム音読練習は、機械的な音読練習や教科書本文の暗唱ではなく、教科書本文の内容理解を通して、自分が「読んだ」内容をもとに「話す」ことにつなげるための言語活動として位置付けたものである。よって、上で述べたように、このシステム音読練習についても、各単元におけるパフォーマンス課題を鑑みて、その練習の有無を決定する必要がある。

(2) ワークシート (①～③のシートを関連させて使用する)

①システム音読シート (for G8)

音読シート

<pair work>

1. Pair Reading	ペアで英文を一文ずつ交互に読む。	「読む」ための練習
2. Small Teacher	ペアでじゃんけんをし、勝った方が英文を行ごとに読み、負けた方は何も見ずにリポートする。	
3. Important Part Reading	自分が大事だと思う部分を相手に伝えるように読む。相手はどこか予測する。終わったら交代する。	
4. Read and Look up	じゃんけん勝者が先生役で Read & Look up を行う。	
5. Chunk Master 1 <英語→日本語>	じゃんけんで勝った方が英語を行ごとに読む。負けた方はシートを見ずにすぐに日本語に直す。	「覚える」ための練習
6. Like an interpreter <日本語→英語>	じゃんけんで勝った方が日本語を行ごとに読み、負けた方はそれを通訳のように英語に訳す。その際はパートナーを見て発話するようにしよう。	
7. Gossip Reading	「彼は〇〇なんだって。」のように第三者の目線でうわさ話感覚で読む。part1・3・4のときは一文ずつ、part2のときは人物毎に読む。	「表現」につなげるための練習
8. Like a Newsreader	ニュースキャスターのように顔をできるだけ上げながら読む。ペアの相手は発音等をチェックしてあげる。終わったら交代する。	
9. Re-telling①	時系列に沿って、並びかえで使用した絵を参考にしながら内容を要約する。一つの絵ごとに交代する。	
10. Re-telling②	時系列に沿って、キーワードを参考にしながら内容を要約する。一つのキーワードごとに交代する。(一文に複数のキーワード使用可)	
11. One Sentence Plus	人物毎にペアで読みながら、本文の最後または途中に一文付け加えて読む。	
12. Paraphrase	人物毎にペアで読み、パラフレーズできるところはしながら読む。	
A. Recitation	美しい発音にこだわってしっかり朗読する。	「読む」ための練習
B. Important Part Reading	自分が大事だと思う部分を相手に伝えるように読む。	
C. Chunk Master 1 <英語→日本語>	英語を見て(日本語部分を折って)、チャンクごとに日本語に直す。	「覚える」ための練習
D. Chunk Master 2 <日本語→英語>	日本語を見て(英語部分を折って)、チャンクごとに英語に訳す。	
E. Gossip Reading	「彼は〇〇なんだって。」のように第三者の目線で噂話感覚で読む。	「表現」につなげるための練習
F. Like a Newsreader	ニュースキャスターのように顔をできるだけ上げながら読む。	
G. Re-telling①	時系列に沿って、絵を参考にしながら内容を要約する。	
H. Re-telling②	時系列に沿って、キーワードを参考にしながら内容を要約する。	
I. One Sentence Plus	本文の最後または途中に一文付け加えて読む。	
J. Paraphrase	パラフレーズした文を入れながら読む。	

- ・学校でのペアワーク用
- ・何のための練習かがわかる
- ・難易度が徐々に上がっていく
- ・負荷を少しずつかけて練習

Listening Round の絵の並べかえで使用した絵を活用する

家庭学習用

②パート別音読シート（G8 Unit 5 Part 3）

音読シート Unit 5 Universal Design

5-③<Read and Think 1(p.72)>
 咲は学校で行われた「車いす体験」の感想を述べています。はじめて車いすを体験し、どう感じたのでしょうか。

①	I used a wheelchair for the first time in my life.	私は車いすを使った。 初めて 人生で
②	When I sat in it I couldn't use it easily.	それに座ったとき それを簡単に動かすことができなかった。
③	I felt a little scared.	少しこわいと感じた。
④	I tried to get on a bus, but it was difficult.	バスに乗ろうとした でも難しかった
⑤	The bus door was wide.	バスのドアは幅が広がった
⑥	Even so, it was very hard.	それでも かなり難しかった。
⑦	I needed a lot of help.	かなりの手助けが必要だった。
⑧	I learned an important lesson from this experience.	わたしは学んだ 大切な教訓を この経験から
⑨	From now on, when I see someone in need I'll give them a hand.	これからは（今後は） 困っている人を見かけたら その人たちに手を貸します。（貸すつもり）

<Key Words>

scared	/	get on a bus	/	difficult	/	need	/	help
learn	/	important lesson	/	someone in need	/	give ~ ...		

・チャンクごとに区切った教科書本文
 ※①システム音読シートのレベル1～8で使用

・キーワードを参考に本文内容を要約
 ※①システム音読シートのレベル10で使用

③システム音読自己評価シート（for G8 Unit 5）

システム音読 Self-Assessment Report <自己評価シート> class: ____ no: ____ name: ____

Unit 5 Universal Design

(1)【目標】システム音読を通して、教科書の表現を活用しながら自分の考えを発信することができるようになる。
 (2)【自己選択】学校ではペアで、家では個人で必要なメニューに取り組もう。自分の現在地を知り、目標に向かってどこまでレベルを上げられたかをチェックしよう。
 (3)【記録】システム音読はできるだけ12に近づくようにレベルを上げていこう。家でもホームマスでも多く読めるように練習しよう。速読トレーニングは新記録に挑戦しよう。
 ※音読スピード=WPM(words per minute)<単語数/分> ネイティブと同じスピードで読める→リスニング力が飛躍的にupする→ネイティブの話す英語が聞き取れる→長文読解も速度up
 ※Hop Stage:ネイティブが相手にわかりやすく話すスピード=150wpm Jump Stage:CNN などニュース番組でキャスターが話すスピード=180~200wpm

ページ	日付	at school												at home																											
		システム音読												速読トレーニング				システム音読				速読トレーニング																			
		「読む」ための練習			「覚える」ための練習			「表現する」ための練習						語数	150 wpm	200 wpm	記録	「読む」ための練習			「覚える」ための練習			「表現する」ための練習						語数	150 wpm	200 wpm	記録								
① p.68	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	37	15 秒	11 秒		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	37	15 秒	11 秒		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
② p.70	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	5	18 秒	14 秒		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
③ p.72	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	7	31 秒	23 秒		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
④ p.74	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	74	30 秒	22 秒		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	74	30 秒	22 秒		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

【振り返り】<ペア練習を振り返る>
 1) パートナーをサポートしたり、サポートしてもらったか。
 2) パートナーとのペア練習に向けて、休み時間や家で練習した。
 <自分の伸びを確認する>
 3) 自分のレベルが上がった。
 4) 自分のレベルを上げるために休み時間や家で練習した。

振り返りを重ねながら目標達成に向かう

(3) 注意点

- ・(2) ①のレベル7ゴシップ読みは、三人称単数現在形や代名詞の定着に効果があるが、第一学年において最難関の言語材料であるため、間違える生徒も多い。間違えたまま練習することのないように、毎時間、全体の一場で一緒に練習する必要がある。
- ・(2) ①のレベル7以降は、定期的に全体の一場で一緒に練習したり、よいパフォーマンスをしている生徒にモデリングさせるとより効果的である。

(4) システム音読練習の指導の詳細

→平成 29 年度研究論文「生徒が主体的にコミュニケーション能力を高めようとする授業の創～領域統合型の授業設計と学びへ向かう評価の在り方～」参照